

# コメ輸出19年度に15倍

## 札幌「ワツカ」、1.5万トに

コメ輸出の道内最大手、「Wakka Japan」(ワッカ・ジャパン、札幌)は2019年度に、道産米を中心に輸出量を現在の15

倍となる1万5千トに拡大する。アジアや米国向けに価値感のあるコメの輸出を増やし、これまで富裕層向けに日本料理店が中心だった

販路を中間層向けにも広げる。道産米の販路拡大が、道内農家の収益安定にもつながりそうだ。同社は香港、シンガポ

ル、台湾、米国ハワイ州の現地法人を通じ、富裕層向けの日本料理店やすし店などに卸している。現地で玄米から精米する鮮度の高さが売りで、1キロ600円超の高価格帯のコメを売り込んできた。今後は日系も含め現地の回転すし店やカレー店など、これまで米国産や台湾産を使っていた飲食店向けに、より価値な価格帯の日本産米を売り込む。

これにより、19年度のコメ輸出量を、本年度計画分の千トの15倍の1万5千トまで引き上げる。同社は16年度、日本からの輸出量全体の1割に当たる約900トを出荷したが、輸出拡大に伴い、19年度に政府が目標とするコメ輸出量10万トに対するシェアは2割近くに高まる見通しだ。

輸出拡大に向け、生産費削減にも取り組む。具体的には、取引農家に面積当たり収量の多い品種への切り替えや、種もみを直接ほ場にまく低コストの「直播栽培」の拡大を促し、割安なコメの調達を増やす。輸出拡大のための農林水産省の補助事業も活用する。同社が扱うコメの約半分は道産。上川、空知管内などから仕入れており、産地を広げることで輸出量の6割を道産米で賄う計画だ。